

男鹿南中、地元商店と開発 **地域の魅力、菓子で表現**

第1弾の3種は完売



男鹿南中学校（男鹿市）の生徒が市内の菓子店と連携して6種類の「男鹿の魅力を伝えるお菓子」を開発し、なまはげ柴灯祭り初日の9日、うち3種類を道の駅おがで販売した。生徒たちも接客に加わり、すぐに完売する人気ぶりを見せた。

販売したのは▽ナマハゲのお面をイメージした男鹿梨入りのモンブラン「はっぴーなまはげモンブラン」（600円）▽ひび割れもあえて生かしてナマハゲの荒々しさを表現したマカロン「なまかろん」（2個セット350円）▽優しい口溶けを雪解けになぞらえたチョコ入りあんの餅「snow」（180円）。

男鹿南中では23年度、2年生32人が総合学習の一環として、鈴木金栄堂（同市北浦）とコラボした商品開発に取り組んできた。昨年10月以降、4代目店主・鈴木久さん（39）が学校で講義をするなどして生徒にお菓子作りを紹介。商品化は当初、生徒のアイデアの中から1種類を選ぶ予定だったが、6種類を季節に合わせて販売していく形とした。

この日は第1弾として3種類をお披露目し、古仲泰輝さん（14）は「丹精込めて作った商品なので、多くの人に買ってもらえてうれしい。お菓子を通じて男鹿の魅力を知ってほしい」と話した。鈴木さんは「実際に販売するに当たり、生徒がコストのことなども一緒に考えてくれた。この地域でしか買えないものとして売り出していきたい」と話した。

生徒は販売終了後、船川地区のTENOH男鹿で、地域の小売業者を対象に6種類のお菓子をPRした。今回発売した3種類のお菓子は、鈴木金栄堂の商品として売り出していく方針。残りの3種類は今後、季節に合わせて発売する予定。

この日は男鹿南中の1年生も、なまはげ柴灯まつりのサテライト会場のJR男鹿駅周辺で男鹿の魅力をまとめたリーフレットを配布し、盛り上げ役に一役買った。（藤田祥子）



（令和6年2月10日（土）秋田魁新聞より一部抜粋）